とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2026.9.25
クラス（年齢）	幼児クラス（3，4，5歳児）
年間テーマ	自然

1．活動テーマ

≪テーマ≫

みんなのもりをなおそう！～話し合い編～

≪テーマの設定理由≫

子どもたちが日頃から親しんでいる「みんなのもり」に設置している手づくりの看板が、長年の使用により劣化し、壊れていることに気が付いた。子どもたちと一緒に看板の状態を確認し、修繕することにした。木などの自然素材は、雨や風、日差しなどの影響を受けながら少しずつ変化していく。今回の活動を通して、自然素材の特徴や変化に気付き、身近な自然に目を向けるとともに、自分たちがつくり上げてきた「みんなのもり」を大切にしようとする気持ちを育みたいと考えた。

2．活動スケジュール

主活動の前に行う

3．探求活動の実践

≪活動の内容≫（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

イス、タブレット

≪活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り≫

「みんなのもり」を訪れた際、子どもたちは朽ち果てた看板や倒れている木々を発見した。「看板が壊れているよ」「直したいね」「新しい看板を作りたい！」といった声が聞かれ、自分たちが親しんできた森を大切にしたいという気持ちが芽生えていた。

そこで、森の様子を振り返りながら、これからどうしたらよいかを子どもたちと話し合うことにした。

「どうしたら看板を直せるかな？」
「自分たちだけでは難しいね。」
「園長先生にお願いしたらいいんじゃない？」

子どもたちは自分たちでできることや、大人に手伝ってもらいたいことを考え、意見を出し合った。そして、みんなのもりを大切にするために、園長先生に看板を直したいことをお願いすることにした。









4．振り返り

≪振り返りにより得た保育者の気づき≫

今回の話し合いでは、森の変化に気づくだけでなく、「どうしたらよいか」を自分たちで考え、解決に向けて行動しようとする姿が見られた。
友だちの意見を聞きながら考えを深め、園長先生にお願いするという方法を自分たちで見つけたことは、子どもたちの主体性や協同性を育む機会となった。また、自分たちの思いを言葉にして伝える経験にもつながった。
保育者がすぐに解決方法を提示するのではなく、子どもたちの気づきや思いを受け止め、話し合いを見守ることで、自分たちで考え、行動しようとする意欲を引き出すことができた。
今後は、子どもたちと一緒に園長先生へお願いする機会を設け、自分たちの思いを伝える経験につなげていく。
また、看板の修繕だけでなく、みんなのもりをより楽しく、安全に過ごせる場所にするために、子どもたちからアイデアを募り、実現に向けて取り組んでいきたい。
身近な自然環境の変化を自分たちのこととして捉え、考え、周囲の人と協力しながら環境をよりよくしていく経験を大切にしていく。